**様式Ｃ－１９**

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年６月６日現在

機関番号：23503
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21520270
研究課題名（和文）ポストコロニアル的観点から考察した日英文学図像にみるオリエント表象の分化と変容

研究課題名（英文）　Post-colonial Interpretation of Transformational Oriental Images as Seen in English and Japanese Literary Works

研究代表者
千森　幹子（CHIMORI MIKIKO　）
山梨県立大学・国際政策学部・教授
研究者番号：20236821

研究成果の概要（和文）：本研究は、ポストコロニアル的観点から、19 世紀から 20 世紀イギリスで出版された文学挿絵における、日本、中国、中東にいたるオリエント表象の分化と変遷を、政治（帝国主義と植民地主義政策）社会（オリエント諸国への西洋観）および、文化（ジャポニズムに代表される美術様式や万博などにみられる西洋の東洋文化理解）を通じて検証する学際研究である。

研究成果の概要（英文）：This intercultural project titled “Post-colonial Interpretation of Transformational Oriental Images as Seen in English and Japanese Literary Works” deals with the adaptations of Japanese or oriental images into English illustrated stories from the nineteenth century to twentieth century in relation with post-colonialism and with the styles of art current, which aims to explore how the English oriental images have been influenced by the techniques of Japanese art.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2009 年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 2010 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2011 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 3,000,000 | 900,000 | 3,900,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：英米・英語圏文学
キーワード：比較文化　表象文化　美術史　イラスト　文化研究　ポストコロニアリズム　オリエント　ジャポニズム

１．研究開始当初の背景
国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけを、次のように判断し、当該研究の学術的な特徴・独創性を確認し、研究申請と研究を行った。
（1）文学作品と図像に関する研究：
文学作品とその図像に関わる研究は、近年、注目されはじめている。しかし、ポストコロ

ニアル観点に立脚したイギリス文学作品の挿絵研究は、極めて少ない。さらに、申請者の知る限り、ポストコロニアル観点からイギリス文学作品図像におけるオリエント表象の変遷を論ずる研究は、研究代表者が科学研究費補助金基盤（C）の交付を受けた研究「ポストコロニアル的観点から考察した日英『ガリヴァー旅行記』図像にみる少年性」（平成17－20年度）のみである。

（２）ポストコロニアル的観点からの図像研究：
先行研究：ヴィクトリア朝の雑誌と新聞の図像に描かれた中国と日本のイメージを英国近代史から論じる、東田雅博氏の『図像のなかの中国と日本』(1998)。しかし、同書の扱う領域は、ヴィクトリア時代の雑誌と新聞に限定されている。しかし、研究代表者による本研究「ポストコロニアル的観点から考察した日英文学図像にみるオリエント表象の分化と変容」は、東田氏の図像研究手法を継承しつつ、19世紀から20世紀にいたるヨーロッパを含むイギリス文学作品図像研究へと、研究領域を広げるものである。

（３）絵本史の観点からの先行研究：
三宅興子氏の『イギリスの絵本の歴史』等の著書。日本を描いた子どもの絵本を紹介研究をしているが、本研究は、研究対象を英文学全般に広げ、元々西洋イメージとして描写されていた図像が、19世紀から20世紀に至る時代変遷のなかで、いかに東洋イメージとして視覚化されていったのか、その表象の特性と分化・変容の過程を、政治社会文化的観点から検証する、初めての極めて独創的な学際研究である。

（４）アラビアン・ナイト挿絵研究
数本の先行研究（Robert Irvin の *Visions of the Jinn*, 2011 や Kazue Kobayashi の論文 "The Evolution of the *Arabian Nights* Illustrations," 2006 等)があり、一部の挿絵画家の作品へのジャポニズムの影響に言及する研究（*The Age of Enchantment*, 2007 等）もあるが、いづれも、美術史的な観点が中心である。一方、本研究は、単なる美術史的図像研究にとどまらないカルチュラルスタディである。

（５）国際的な評価：
①本研究が研究手法を継承発展した研究代表者による先行研究：
・単著"Sense in Nonsense: The *Alice* Books and Their Japanese Translators and Illustrators"　（イースト・アングリア大学、博士論文、2003）
・国際学会での発表：
　'Tove Jansson's Alice Illustrations,'（Tove Jansson Conference, 24 March, 2007, Oxford University）
　'Oriental Illustrations of Alice,'（ASH Colloquia, 26 September 2006, Clare Hall, University of Cambridge）
②ケンブリッジ大学の Gillian Beer 教授とイースト・アングリア大学の元指導教授 Clive Scott 教授から、本研究の独創性を評価され、共同研究の内諾をえる。

２．研究の目的
　本研究は、ポストコロニアル的観点から、19世紀から20世紀英国で出版された文学作品挿絵における、日本中国中東にいたるオリエント表象の分化と変遷を、政治（帝国主義と植民地主義政策）社会（オリエント諸国への西洋観）および、文化（ジャポニズムに代表される美術様式や万博などにみられる西洋の東洋文化理解）を通じて検証する学際研究である。また、そのアジア表象を図像と文字テキスト、文学と文化社会との関わりから考察する比較研究である。
　具体的な目的は、次の4点：
（１）英版文学図像におけるオリエント表象作品・挿絵画家の資料収集、デジタル資料作成・分類
（２）連携研究者との共同研究
- Dame Gillian Beer 教授（ケンブリッジ大学）19・20世紀英文学の分析
- Clive Scott 教授（イースト・アングリア大学）欧文学と視覚芸術の分析

（３）オリエント表象の特性と混在（中国と日本など）と分化変遷の様態を、政治社会文化的観点から、解明する。
（４）成果発表

３．研究の方法
（１）まず、研究計画の第一歩である、日英文学挿絵に関わる資料収集、文字および画像テキスト複写とデジタル化、インデックス化収集方法：
- 購入：図像資料は、色調手触り等を検証するためできる限り購入。
- 資料所蔵図書館での調査／複写。

英国：British Library (London) Cambridge University Library(Cambridge) など
日本：国会図書館、国立民俗学博物館など

（２）海外共同研究者との共同研究：
調査収集したデータをもとに、共同研究者との共同研究により、本研究に広範囲重層的な視点を提供する。
- ケンブリッジ大学 Gillian Beer 教授（英文学文化に関わる碩学）文学テキストと図像研究、および英国植民地政策を扱う

本研究においては、英文学文化に対する同氏の碩学は不可欠である。

- イースト・アングリア大学 Scott 教授（映像研究、ヨーロッパ文学）英国版文学図像に、英国にとどまらぬヨーロッパ的広義な視点を提供するとともに、挿絵に映像芸術という重層的な視点を提供。

（３）研究資料の分析：
収集された画像・文字資料の分析
①欧米版画像・資料：『ガリヴァー旅行記』『アラビアン・ナイト』『アンデルセン童話集』など
②日本版画像邦訳資料：『アラビアン・ナイト』『アラジン』『アンデルセン』
③万国博覧会、ジャポニズム関連

４．研究成果
（１） 資料収集・整理・デジタル化
①イギリス版（一部フランス・ドイツ・アメリカを含む）『アラビアンナイト』『アラジン』画像の収集、整理（1719～1950 年代）：76 種。複写した資料は、90 パーセント程度、デジタル資料に変換。購入資料は、30 パーセント程度、デジタル化。残りの資料のデジタル・インデックス化は、今後の課題。
②日本版『アラビアンナイト』邦訳画像の収集：5 種
今回は、研究期間が三年でありまた、対象とする文学作品の限定が遅れ、邦訳に関しては収集研究する時間が十分ではなかったが、今後の研究で継承する予定。

（２）イギリスを中心とした欧米『アラジン』『アラビアンナイト』挿絵 76 種（1719～1950 年代）におけるオリエント・西洋表象のデータ収集解析。
具体的には、欧米『アラジン』図像における日本表象を、①出版年代、②出版地域、③対象（女性表象・男性表象・装飾品や建築）、などに分類。
①出版年代
18 世紀：2 種
1800 年～1849 年：8 種
1850 年～1899 年：22 種
1900 年～1919 年：19 種
1920 年以降：22 種
出版年代不明：3 種
②出版地域
英国：67 種
フランス：2 種
アメリカ：6 種
ドイツ：１種
③日本表象の対象：
A. 女性表象：17 種
〔出版年代〕
1860 年代：1 種
1870 年代：1 種
1980 年代：1 種
1890 年代：4 種
1900～1909 年：1 種
1910 年代：4 種
1920 年代：2 種
1930 年代：２冊
出版年度不明：１種
女性における日本表象の起源は 1875 年のウォルター・クレインの挿絵、最盛期は 1890～1910 年代。
〔日本表象の内容〕
髪型：14 種
着物：8 種
〔登場人物〕
姫：10 種
従者の女性：10 種
アラジンの母：2 種

B. 男性表象：11 種
〔出版年代〕
1890 年代：3 種
1900～1909 年：1 種
1910 年代：5 種
1920 年代：1 種
1930 年代：1 冊
最盛期は 1890 年から 1910 年代に集中。
〔日本表象の内容〕
鎧や兜：10 種
仁王像：1 種
〔登場人物〕
アラジン：7 種
魔法使い：4 種
ジン：2 種
子ども：1 種

C. 装飾品や建築など：18 種
〔出版年代〕
1870 年代：1 種
1880 年代：1 種
1890 年代：2 種
1900～1909 年：1 種
1910 年代：7 種
1920 年代：1 種
1930 年代：4 種
1940 年代：1 種
1910 年代が中心であるが、1875 年から 1948 年と幅広い。ジャポニズムの影響を受ける。
〔日本表象の内容〕
提灯：9 種
番傘：5 種
障子：4 種
床座り：4 種
扇：3 種
屏風：2 種
その他（刀、盆栽、生垣など）：各 1 種
日本表象の対象となった装飾品や建物は、

万国博覧会やジャポニズムなどで英国人になじみのあったものが多い。
なお、上記の資料を分析した、イスラム表象、中国表象に関する詳細な研究成果は、今後の論文・著書で論じる予定。

（3）『アラジン』『アラビアンナイト』における日本表象分析によって、解明されたオリエント表象の特徴：
① 18 世紀から 1824 年ごろまでは、ほとんどが西洋表象で、1824 年以降になって初めて中国表象が出現
② 日本表象がはっきりと出現するのが、1875 年のクレインの挿絵で、1930 年ごろまで継続。
③ 女性表象と男性表象を比較すると、出現年代は女性表象が早くまた、種類も多い。描写の対象は、女性が日本髪に着物、男性では鎧兜に集中している。一部、日本と中国のイメージの混乱混在がみられる。
④ オリエント表象としてはイスラム・中国・日本・北アフリカなどの広範なオリエントの国々が対象である。
以上、『アラジン』における日本表象の詳細は、2012 年出版予定の拙論「英版『アラジン』画像にみるオリエントイメージの混在と融合―日本表象を中心として」『世界文学総合目録』(研究編)』(大空社、2012 年出版予定）を参照。

（4）日本表象がみられる主要英版挿絵の年代別リスト：
①1875 年、ウォルター・クレイン（Walter Crane）挿絵（英）
②1893 年、フランシス・ブランデッシ(Frances Brundage）挿絵(米)
③1899 年、ウイリアム・ヒース・ロビンソン（William Heath Robinson）挿絵（英）
④1914 年、エドモンド・デュラック（Edmund Dulac）挿絵（英）
⑤1918 年と 1919 年トーマス・ブラックリー・マッケンジー（Thomas Blackeley Mackenzie）挿絵（英）
⑥1920 年、A.E. ジャクソン（Jackson）挿絵（英）
⑦1930 年、カイ・ニールセン（Kay Nielsen）

（5）『ガリヴァー旅行記』図像と『アラジン』図像における日本表象の比較研究：
①対象資料は、英米版『アラジン』76 版（うちかなり正確な日本表象が 18 版、日中の区別が不明な版が 7 版、合計 25 版)、英米版『ガリヴァー旅行記』102 版（うち日本表象は 6 版)。
②時代は、『アラジン』が 1875～1830 年頃（曖昧な判を入れると 1847～1951 年)、一方、『ガリヴァー』は 1864～1923 年にわたる。しかし、正確な日本表象が出現した時期は、1875 年前後で、両作品とも類似している。
③『アラジン』における日本表象が『ガリヴァー』に比べて圧倒的に多い。その理由としては、『アラジン』の登場人物が中国など東洋人であったこと、また、クレインのジャポニズム的表象が後続のイラストレータに強い影響を与えたから、と考えられる。
④女性表象に関しては、『アラジン』では日本人イメージで描かれているのは、姫や宮廷の女官など 12 件と圧倒的に多く、『ガリヴァー』では、第三部に２件あるだけである。両作品を比較すると、『アラジン』挿絵では、女性表象に注目し、その浮世絵や芸者などに代表される日本女性の魅力やヨーロッパの幻想としてのエキゾチズムに対する熱中が伺える。
⑤男性表象としては、（1）『ガリヴァー』では武者表象がみられ、ポストコロニアル的な関連が考えられる。一方、『アラジン』では、鎧兜もみられるが、政治的な意味は少なく、むしろ、万博やジャポニズムの流れからみたエキゾチックな美術工芸への関心の延長上と考えられる。（2）また、仏教関連のイメージは『アラジン』において僧侶や仁王像として表現されるが、『ガリヴァー』には見られない。（3）歌舞伎や能の影響は、『ガリヴァー』『アラジン』両者にみられる。
⑥日本の装飾品、建築に関する表象。『アラジン』には日本の装飾品がカットや挿絵の中の小物として描写されるが、『ガリヴァー』ではほとんど見られない。また、建築に関しては、両作品とも、町並みや鳥居など、日本関連の写真などの資料を参考にした描写がみられる。
⑦以上、次の特徴が解明された。
(i)『ガリヴァー』の日本表象には、一部、ラピュータやバルニバーヴィ人にみられるような、愚行や無知を揶揄する風刺的要素があった。一方、『アラジン』には、風刺的要素はすくなく、むしろ、女性表象にみるような、日本に対するエキゾティズム、あるいは西洋がいだく東洋の女性の魅力や官能性の強調が中心。
(ii)日本イメージと中国イメージの混在
『ガリヴァー』に比較すると、『アラジン』のほうが、イメージの混在が少ない。また、『アラジン』においては、女性表象よりも男性表象にその混在が多く見られる。その理由としては、こうした女性キャラクターが着物や日本髪などの浮世絵や芸者、歌舞伎などのジャポニズムの影響を受けているため、中国イメージと一線を画しているためと考えられる。
デュラック（1914 年）以降は、日本イメージと他のイメージが融合し、それぞれのイラストレーター独自のスタイルが形作られて

いく傾向が顕著となる。
(iii)『ガリヴァー』では散見された侍のイメージが『アラジン』にはほとんどみられない。その理由としては、『ガリヴァー』には風刺の対象であるラピュータやバルニバービーなどの不特定多数の人々が描かれ、芸者風なラピュータ女性を相手にする好色な侍姿のバルニバービー人を描いたり、リリパットの群集に侍を書き込む余地もあった。しかし、『アラジン』では、出てくる群集は、例えば宮殿の兵士、宮殿の召使、さらには宮殿の女官などの同じような服装や外見の人びとであり、新しいランプの交換を呼びかける魔術師が歩く街角にいる子どもたちと侍姿の日本人男性がともに出てくる可能性は極めて少ない。おそらく、それが『アラジン』に侍表象のない理由であると考えられる。
　以上、『ガリヴァー』の日本表象が、ポストコロニアル的観点に立脚した、政治的な風刺を主な目的にしていたのに対し、『アラジン』では、ジャポニズムに代表される日本の神秘的な美術や工芸品、歌舞伎や能楽などの文化的関心、とりわけ、日本芸術や日本の工芸さらに日本女性やファッションへの審美的、耽美的な幻想が中心であり、そこに、『アラジン』の日本表象の特徴があった。

　その成果は、拙論『英版『アラジン』画像にみるオリエントイメージの混在と融合―日本表象を中心として」『世界文学総合目録』（研究編）』(大空社、2012 年出版予定)と「『ガリヴァー旅行記』図像とオリエント―英仏挿絵に見る日本表象を中心として―」　『十八世紀イギリス文学研究　第 4 号　交渉する文化と言語』、（開拓社、2010 年）で発表されている。
　本研究の独創的な文化研究的手法とポストコロニアル的観点は、国内外で注目されている。

（６）イギリスを中心とした欧米版『アンデルセン童話集』挿絵研究
　英米版『アンデルセン童話集』挿絵本 53 種（1906～1950 年代）におけるオリエント・西洋表象のデータ収集。
　①50 版の複写インデックス化
　②分析、成果発表は、今後の課題。

（7）英版文学作品図像における日本表象研究
　現在、英版文学作品図像における日本表象を調査し、いくつかの作品や画家に的をしぼり、収集調査研究中。
　その研究は、研究代表者が、科学研究費補助金（2012～2014 年、基盤研究 C）を受けた研究、「１９-２０世紀英版文学図像のオリエント表象にみる東西交差の系譜とポスト植民地主義」課題番号：21520270）に、継続さ発展される予定。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計　１　件）
① 千森幹子、「英版『ガリヴァー旅行記』図像における中国表象」『日本ジョンソン協会年報』第 34 号, 11-16. 2010 年、依頼原稿

〔図書〕（計　５　件）
① 千森幹子、「英版『アラジン』画像にみるオリエントイメージの混在と融合―日本表象を中心として」『世界文学総合目録』（研究編）』大空社、掲載ページ未定、2012 年出版予定
② 千森幹子、「フィリッパ・ピアス『トムは真夜中の庭で』とイギリスの自然」　『英語圏諸国の児童文学 II―テーマと課題―』ミネルヴァ書房、169-176. 2011 年
③ 千森幹子、「『ガリヴァー旅行記』図像とオリエント―英仏挿絵に見る日本表象を中心として―」　『十八世紀イギリス文学研究　第 4 号　交渉する文化と言語』、開拓社、　58-78.　2010 年
④ 千森幹子、「明治の『ガリヴァー旅行記』とポストコロニアリズム―巖谷小波の『小人島』『大人國』を中心として」『図説　翻訳文学総合事典　第 5 巻　日本における翻訳文学（研究編）』大空社、55－81. 2009 年
⑤ 千森幹子、　『ポストコロニアル的観点から考察した日英『ガリヴァー旅行記』図像にみる少年性』（平成 17～20 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）成果報告書、課題番号：17520215、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）成果報告書 1-6. 2009 年

〔その他〕
①報道関係
本研究が手法を踏襲した代表者による先行研究の紹介:
- 2010.5.3. テレビ朝日『雑学王』出演・資料提供・企画協力
- 2010.4.14. ＹＢＳテレビ『週末仕掛人ヤマナシプロデュース』「アリスインワンダーランドと山梨の知られざる関係」に出演・資料提供

②ホームページなど
- http://www.yamanashi-ken.ac.jp/department/internationalpolicy/teacher/chimori_mikiko
- http://jglobal.jst.go.jp/public/20090422/200901065374195240

６．研究組織
(1)研究代表者
千森　幹子　(CHIMORI　MIKIKO)
山梨県立大学・国際政策学部・教授
研究者番号：20236821

(2) 研究協力者
Dame Gillian Beer
Professor, Faculty of English, University of Cambridge

Clive Scott
Professor, School of English and American Studies, University of East Anglia